

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.214]]]]]]](2005.2.1)

布施範行さん拉致に関する告発状を山形県警に提出

1000 番台リストの布施範行さん（昭和 53 年失踪）について昨日ごお母さんの布施マサ子さんらご家族・法律家の会の担当である富坂弁護士、調査会の真鍋専務理事・斎藤理事が山形県警に告発状の提出を行いました。受理については後日連絡の予定とのことです。これで現時点の 1000 番台リスト 33 人全員が告訴ないし告発を終えたこととなります。今後追加される 1000 番台についても同様に対応していく予定です。

北朝鮮、調査会を「反共和国謀略団体」と非難

北朝鮮の国営朝鮮中央通信は 1 月 31 日、下の論評を報道しました。

この論評は 16 日の 2 人の写真発表について非難したのですが、中にも出てくる石川千佳子さんのことについては事件が報道されてから数カ月して昨年暮れに論評していました。反応が鈍いのかえって気になっていたのですが、今回は期待通り(?)のタイミングで出てきました。

調査会を「反共和国謀略団体として悪名をとどろかせている」とまで評価してくれるのは光栄の至りで、少なくとも朝鮮中央通信に褒められるよりははるかにましです。近い将来北朝鮮に乗り込む時は、この論評を持って行って「金正日政権から反共和国謀略団体と言われた」と言えば北朝鮮の人々からは大歓迎してもらえんと思います。

ところで、この文章を呼んで頭に浮かんだのは、かつて柏崎の少女監禁事件が明らかになったときの鬼の首でもとったような北朝鮮の論評です。北朝鮮はこれをとらえて「ほらみる、拉致など日本のでっちあげだ」と大騒ぎしました。

寺越武志さんの著書ということになっている北朝鮮で出版された本、『人情の海』には次のように書かれています。

一九九〇年一月には新潟県三条市で小学校に通っていた九歳の少女（訳注・原文では氏名が記されている）が失踪した。日本の警察は一〇年近くこの失踪事件の真相を明らかにできなかった。

後にわかったところによると、少女は校庭で野球を観ていたところ、正体不明の男に拉致された。そして同じ県内の柏崎にある拉致犯の家に連れて行かれ、外に出ることもできずに監禁されていた。

九歳の少女が一九歳の女性になってはじめて失踪事件の内容が明らかになった。

この事実をはじめとして拉致犯を逮捕できない多くの拉致事件をもってして、日本の警察が無能で職務怠慢だという社会的非難が強烈に巻き起こったのも当然だ。

ところで不思議なことは警察が拉致犯を捕まえられず、迷宮入りする度、日本当局者と極右保守勢力がその責任を転嫁し濡れ衣を着せて、「北朝鮮の拉致疑惑」説を持ち出すことである。

彼らは一九七八年に失踪した田口八重子事件、一九七七年に新潟県で一三歳の横田めぐみ失踪した事件など七件一〇名の日本人が「北朝鮮に拉致」されたとあって、これは何者かによる拉致の「冰山」の一角であると大騒ぎしている。

本当に稚拙で愚かな断定と常識以下の詭弁に驚くばかりだ。

このようなごり押しをどうしてするのか、合理化し既定事実として納得させようとする日本の一部のマスコミと売文家たちの必死の努力は例えようもなく哀れだ。

彼らが「北朝鮮の日本人拉致」を扱った文を見ると、例外なく科学的で客観的な資料を提示できておらず、憶測と判断ミスで一貫している。これらの文は「した可能性がある」とか、「...と見られる」とか、「...だと考えられる」といったあいまいさと誰某から「聞いたところによると」といった無責任さが特徴である。さらに彼らは「聞いた話は伝わる過程で誇張されたり脚色されることも少なくない」と言い、好き放題いい加減に書いた文で逃げ道を予め用意してある。

これは北朝鮮で出版された本です。したがって、寺越武志さんは自らの意志でこの本を書いたのではありません。完全に北朝鮮当局のプロパガンダなのですが、このときは9・17の前なので田口八重子さんや横田めぐみさんの事件もでっち上げとっています。そのことを理解して読むと、今回の論評の意味が良く分かります。

ところで、論評では最後に「日本は今回の謀略劇の真相を正確に解明し、責任者らを直ちに処罰すべきである」とありますが、どうせなら「私たちの手で処罰する」というべきではないでしょうか。「わが方にとってはとくに驚くことでも新しいことでもない」というのも、北朝鮮が気にしていることの証拠で、こんなところにも、北朝鮮の最近の弱気が現れているような気がします。

正体が暴かれた日本の『精密検査』説

(2005年1月31日付朝鮮中央通信論評 ラジオプレスの訳から一部修正して転載)

最近、日本が考案したもう一つの反共和国謀略劇の真相が暴かれ、人々を驚愕させている。

さる17日、日本のマスコミは「脱北者」とされる人々から入手した写真数枚を「精密検査」した結果、写真に写っている2人の男女が数十年前に行方不明になった斉藤裕と松本京子だという事実が新たに「判明」したと一斉に報道した。

この時を逃すまいと日本の内閣官房長官・細田は直ちに記者会見を開いて、「強力な新しい証拠が出た」「北朝鮮側に新たな人物に関する資料の提供を求める」「被害者はまだいる」などとわめき立てた。

ところが2日後、南朝鮮でその写真の中の男女の主人公が現れて「私たちは南朝鮮に住んでいる『脱北者』であり、日本人拉致被害者ではない」と反論し、自分らの写真を公開して広めた団体とマスコミに公式謝罪を求める声明文を発表する事態が繰り返された。

結局、事件を主導した日本の「特定失踪者問題調査会」の代表なる者と誤報を流した日本のマスコミが「謝罪する」「謝罪談話を発表する」として、人々の前で、たっぴりと恥をかく格好となった。

「特定失踪者問題調査会」といえば、反共和国謀略団体として悪名をとどろかせているのに加えて、今回のような悲喜劇を演出して内外の嘲笑と非難の対象となったことが一度や二度ではないため、わが方にとってはとくに驚くことでも新しいことでもない。

昨年、わが方による「拉致被害者」とされていた石川千佳子という女性教員と一緒に働いていた日本人男性によって学校内で殺害されていたということが26年ぶりに明らかになって人々を驚かせた事件もこの団体と関係がある。また、才田善一と言う男性が現在、東京に住んでいることが確認されたのをはじめ、この団体が同じ「部類」で扱ってきた行方不明者らの身元が日本国内で明らかになり、人々の笑い種となったことも多い。

今回、「入手写真」の主人公がマスコミに対して「提供された写真の中には多くの偽物が混ざっているが、そのうちの一枚は私の義理の姉だった」と明らかにしたことだけを見ても、この団体が「入手」して「精密鑑定」したとする資料や、「分類」したとする「北朝鮮拉致被害者」のリストがいかに荒唐無稽なものであるかを知ることができる。

このような団体は、決心さえすれば今後も住所や名前、身元を全く確認できない「脱北者」の名札をつけたり、先端科学技術を悪用したりするなど、手段と方法を選ばずあらゆる詐欺劇をでっち上げるだろうという人々の予測は決してはずれない。

問題は、このような謀略団体の虚偽捏造資料を持ち出して、日本の国家政策を代弁する内閣官房長官なる者が「精密検査」とか「強力な新しい証拠」などと断言して、わが方に公然と食ってかかったことである。

これは、日本政府が現在、わが方を狙った極右勢力の反共和国謀略戦に深く加担して積極的に共謀しているという明白な証拠である。

今回の「入手写真」謀略の件を通じて、日本は「拉致問題」に関して自分らがわめいて

いる「精密検査」の結果なるものの法的価値と信頼度を自ら失墜させた。

日本が1カ月前に「国内最高水準の研究機関による客観的かつ正確な検査結果」として発表した横田めぐみの遺骨「鑑定結果」なるものもいかなるものであるかがあらためて明らかになった。

国内の拉致犯罪を取り扱う上では難しくもない数枚の写真の分析について「鑑定作業における困難を再認識した」「謝罪する」などと弁明する日本が横田の夫から直接受け取った遺骨に限って、いまだに「精密検査」説を主張する理由は一つしかない。

それは、「国民感情」の美名の下に拉致問題を自らの罪悪に満ちた過去の清算を回避するための盾、権力争奪と金もうけの手段、米国に追従した反共和国孤立・圧殺策動の道具としてりようしようという卑劣で不純な目的に根源を置いている。

拉致犯罪は歴代日本特有の遺伝的気質であり、今日もこの社会をむしばむ体質的病弊となっている。

日本は戦時、わが人民とアジア人民に対してはたらいた特大型拉致犯罪について精算していない唯一の戦犯国家であり、戦後60年解明できなかった多くの国内拉致事件を抱えて今日も頭を痛めている国である。

このような日本が誰その「拉致問題」を云々し続けるのは無駄な行為である。

日本は「超大国」の機嫌をとるための反共和国謀略策動に狂奔するよりも、過去の清算をはじめ、国際社会の信頼を得るために専念することが自国内の人民と「国益」のための正しい選択であることを悟らなければならない。

差し当たって日本は今回の謀略劇の真相を正確に解明し、責任者らを直ちに処罰すべきである。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.215]]]]]](2005.2.7)

人権問題で金正日体制窮地に

以下にご紹介するのは韓国のNGO、「北韓人権情報センター」からの情報提供です。もとはNKチョソン（韓国最大手の新聞である朝鮮日報で、北朝鮮問題を担当する統韓問題研究所のホームページ）に掲載されたものです。

これを見ると韓国の中で、北朝鮮の指示によって動く団体が、「反人権運動」を積極的に進めるようになったことが分かります。これまでも妨害はしてきましたが、これほど正面から北朝鮮人権問題に反対することは少なかったと思います。これは当事者の認識というより、北朝鮮の意向で、人権問題にブレーキをかけるよう指示がきていることの証拠です。民主労働党をはじめ、下に名前の上がっている団体は軒並み北朝鮮との関係が噂される団体であり、決して独自の判断ではありません。先日国会内で行われた安倍晋三・自民党幹事長代理を非難する集会も、中で朝鮮総連本部の人間が仕切っていたと言われますが、どれもこれも、これまで後ろで糸を引いていたのが、間に合わなくなって正面に出てきたような感じがします。

一方、韓国の鄭東泳・統一部長官は今日7日の国務会議（日本の閣議にあたる）で「第2期ブッシュ政権の政策ラインが形成されブッシュ大統領が『6者会談と対話を通して南北問題を解決する』との意見を明らかにした点を指摘し、北朝鮮が来る16日の金正日誕生日に全力投球する状況が過ぎれば立場を整理するだろうと予想した」と発言しました。

誕生日に「全力投球」の真偽はともかく、この鄭長官の発言は北朝鮮の中に何らかの葛藤があることを示唆したものです。事態はすでに色々と進展しているのかも知れません。この19日には救う会・家族会・拉致議連が共催で集会を行います。米国からスザンナ・シオルテさん（「北朝鮮自由連合」副会長）、韓国からハンナラ党金文洙国会議員と家族協議会の崔祐英さんが駆けつけます。これらの国際的な動きは北朝鮮をさらに追いつめることとなるでしょう。

対北人権攻勢 核問題解決の障害物に

米国ブッシュ政権の対北人権攻勢が核問題解決を妨げ間半島に緊張を招来する可能性が高いという主張が現れた。

金スアム統一研究院研究委員は三日、ソウル、国家人権委員会で開かれた討論会で「昨年米国で北朝鮮人権法が通過して北朝鮮の人権問題が新たな様相を迎えている」とし、第二期ブッシュ政権は人権を外交政策に積極イシュー化して国際社会の参加を求めると語った。

金研究委員は、しかし「北朝鮮は核問題が解決されても人権問題が提起され続ける限り

体制保障が可能であるかについて疑いを持っている。米国が六者会談で北朝鮮人権問題を提起する場合核問題解決は相当期間池泉するだろう」と主張した。

彼は「米国が人権を押し立て北朝鮮に短期的・直接的な変化を要求するのに反して韓国政府は和解と協力を通じた漸進的人権改善を追求してゐる。北朝鮮人権問題は韓米関係と南北関係を梗塞化させる可能性が高い」と付け加えた。

続いて討論に参加したウリ党のチョン・ボンジュ議員は「北朝鮮人権法が対北強硬策のための政治として昨日、脱北者問題をさらに悪化させるだろう。人権問題は政治的接近より北朝鮮住民の食糧権、健康権時限で扱うのが効果的」だと強調した。

また、民主労働党の李ジョンミ最高委員は「米国の対北人権攻勢は自国の東アジア覇権戦略に従わない北朝鮮を手なづけ、体制崩壊、中国への揺さぶりに目的がある。これは北朝鮮と中国の反発はもちろん、南北関係進展と六者会談開催に悪影響をもたらす」と語った。

米国の北朝鮮人権法発効と脱北者問題に対する正しい認識と対応」を主題として開かれたこの日の討論会は統一連帯、南北共同宣言実践連帯、民主社会のための弁護士会(民弁)、民主労働党、民主言論運動市民連合、天主教人権委員会などが共同で主催した。

(2005.2.3 NKチョソン)

北朝鮮人権国際会議に一部団体反発

北朝鮮人権市民連合(理事長 尹玄)が来る14~16日 西江大学で開催する予定の「第6回北朝鮮難民・人権国際会議」を前にし、会議に反発する団体と葛藤が高まっている。

1999年12月ソウルではじめて開かれたこの国際会議は2003年プラハ(第4回)とワルシャワ(第5回)を経てジュビリー・キャンペーンと世界キリスト教連帯(SWC)など各国の人権団体並びに活動家たちが参与して米国の国立民主主義財団(NED)などが後援する大規模国際会議として成長した。

しかし「6・15南北共同宣言実現と韓半島平和のための統一連帯」は3日、今回の国際会議を「自由と人権という美名の下に行われる反民族的、反統一的、反平和的会議」と規定し、積極的な反対運動を起こすと明らかにし、衝突が憂慮されている。

統一連帯は民衆、市民、言論、人権、宗教、文化など各分野の団体と連帯し、4日から今回国際会議が閉幕する16日までインターネット並びに街頭宣伝活動、記者会見、集会などを通して米国の人権侵害実態などを暴露して対抗する態勢だ。

統一連帯を初めとする民主労働党統一委員会、人権運動サランバン（ ） 民主社会のための弁護士会（民弁）統一委員会などは3日午後ソウルの国家人権委員会の講義室で討論会を開催し米国が制定した北朝鮮人権法と企画入国を批判して「対抗作戦」に突入した。

権オヒョク統一連帯対外協力局長は「この間この会議が対内外敵に反北世論情勢に先頭に立ち南北和解という時代的流れを阻害したという判断にもとづき対応に立ち上がった」と語った。

これに対し今回の国際会議を主宰する北朝鮮人権市民連合はこれら団体の反発の雨後域にいちいち対応する必要を感じないと反応した。

李ヨンファン北朝鮮人権市民連合教育訓練チーム長は「意見が異れば直接行事に参加して公開の場で討論し自らの主張を披歴するのが政党であり、物理的な力を動員して会議を阻止、封鎖しようとするのは新たな葛藤を生み出すだけだ」と語った。

（ 連合通信/N K チョソン ）

サランバン = 居間

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.216]]]]]]](2005.2.8)

生島孝子さんのお母さん逝去

昭和 47 年に東京で失踪した生島孝子さんのお母さん、生島うらさんが昨日(7日)逝去されました。99 歳でした。生島孝子さんは亡命者呉吉男氏の目撃証言などもあり、お母さんは何とか孝子さんに会いたいという一念でがんばってこられました。願いを実現させることができず、誠に残念です。慎んでお悔やみを申し上げます。

お通夜・告別式の日取りは以下の通りです。

お通夜 2月10日(木) 18:00 ~

葬儀 2月11日(金) 13:00 ~

於 常在寺 世田谷区弦巻 1-34-17 Tel 03-3429-1831

東急世田谷線世田谷駅下車徒歩 7 分

(京王線下高井戸、小田急線豪徳寺、東急田園都市線三軒茶屋で乗り換え)

布施範行さんの告発受理

さる 1 月 31 日に告発状提出を行った布施範行さんの件について、山形県警は 2 月 7 日午後、担当の富坂弁護士に対して告発状を受理したと連絡しました。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.217]]]]]]](2005.2.11)

お通夜に参列して思ったこと

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

昨晩（10日）生島孝子さんのお母さん、生島うらさんのお通夜に行ってきました。身内の方中心の、静かなお通夜でした。

ちょうど同じ時期に曾我ひとみさんのお父さんも亡くなりましたが、こちらは蓮池さん、地村さん夫妻や中山恭子・元内閣参与らも駆けつけるなどされていました。正直なところ、「何でこんなに扱いが違うのだろう」という思いを禁じ得ませんでした。

しかし、考えてみれば曾我さん母子も24年間は完全に捨て置かれていたわけです。小島晴則・元全国協議会会長代行は新潟救う会の会報で何度か曾我さんのことを書いておられました。24年間で曾我さん拉致に関わる動きはそれだけでした。新潟の会報でそれを知っていた、当時全国協議会事務局長の私も何もしませんでした。そのころ小島さんから聞いたのは「新潟県警は曾我さんの件は拉致ではないと認識しているようだ」とのことでした。

ところで、先日本棚を整理していたら、平成14年9月18日のNHK「クローズアップ現代」のビデオが出てきました。言うまでもなく前日の小泉訪朝を受けてのもので、国谷裕子キャスターが中継でつながった田中均・外務省アジア大洋州局長（当時）にかなり突っ込んで聞いていました。

このとき、私は横田滋さん、早紀江さん、拓也さん、哲也さん、そして蓮池秀量さん、ハツイさん、透さんと共に同じ外務省にいました。そして、そこで「死亡」というのは北朝鮮の情報をそのまま伝えただけで、何の確認もしていなかったという、衝撃的な事実を梅本和義・駐英公使（元北東アジア課長）から聞かされていきました（このあたりのくだりは拙著『拉致 異常な国家の本質』に書いていますのでご興味のある方はお読み下さい）。

このビデオを見ていてあらためて気付いたのは田中局長が、「8件11人の問題」という言い方を何度か使ったことです。このときにはすでに曾我ひとみという名前は分かっていたし、北朝鮮側からは石岡亨さんや松木薫さんの名前も出ていたのに、それでも当時の政府認定者である「8件11人」に限定しようという思いが汲み取れました。あるいは、認定されている人間以外は最初から眼中になかったのかも知れません。

田中局長とて、たとえ優先順位は後ろでも、拉致問題を進展させたいとは思ったでしょう。しかし、それぞれの人がいくら一所懸命にやっても、お役所の中にいる限りはそれぞれの属する組織の整合性の中でしか動けない。それが現実です。

おそらくは拉致に関わっている官僚の多くは「自分はこんなに夜も寝ないでやっている

のに、なぜ文句を言われなければならないのか」と思っているでしょう。しかし、問題は、現在のこの国のシステムのままでは、拉致問題は絶対に解決しないということです。それはこれまで数十年の歴史が証明しています。拉致被害者はそれぞれのお役所の整合性の範囲を超えたところにいるのですから、常識の範囲でやっけていても帰ってくることはありません。

生島さんのお母さんのお通夜から帰る道すがら色々と考えました。今のこの国の「常識」を守っていればこれからも同様に再会を果たせず死んでいく人が出てきます。北朝鮮で死んでいく拉致被害者は自分たちを見捨てた祖国に恨みをもってその人生を終えるでしょう。ともかく取り返すしかない。外務省や警察や支援室、さらには総理の批判をして溜飲を下げてみたところで何の足しにもなりません。

そもそも、こういう大事なことをお役所だけに任せておく方が間違いです。本当は政治家が、と言いたいところですが、その政治家を選んでいるのは我々有権者です。結局回り回って自分のところにやってきます。国民の力で、お役所の整合性ではなく、国家の整合性を回復しましょう。

調査会では 25 日頃を目標にゼロ番台リストの追加発表を行う予定です。今後さらに積極的に取り組んでいきます。折しも北朝鮮は 6 者協議参加の無期限中断を発表し、核兵器を持っていると明言しました。これは強気に見えますが、実は内部が相当おかしくなっていることの現れです。おそらく、本来なら頼みの綱のはずの中国の指導部は、この発表で「これで北朝鮮と手を切れる」と、喝采しているのではないのでしょうか。横から変なブレーキがかからなければ事態はかなり早く進みそうです。

これからの動きは、日本がリーダーシップを持って動かしていかなければなりません。私たちはもちろんですが、報道関係の方々、労働組合や各種社会団体の方々、国会、地方議会や、行政府、国民全てが力を合わせるときです。頑張りましょう。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.218]]]]]]](2005.2.12)

参考情報

守る会（北朝鮮帰国者の声明と人権を守る会）の三浦小太郎さんからの情報です。以下の集会在大阪・東京で開催されます。

北朝鮮人権法案の成立と脱北者保護、北朝鮮の人権改善に向けて、

3・13（大阪）3・20（東京）脱北帰国者・日本人配偶者証言集会

北朝鮮からここ数年来に「再帰国」した、元北朝鮮帰国者、日本人妻による証言集会を行う予定です。この方々は帰国事業により北朝鮮に渡り、今も北朝鮮にご家族を残されており、これまでは公的な場では証言を控えてきた方々が殆どですが、このたび、ついに勇気をふるい、脱北者保護、帰国者・日本人配偶者の救出、北朝鮮の人権改善、そして中国における脱北者保護の確立などを目指し、立ち上がってくださる方々が現れはじめました。

北朝鮮人権法案の成立に向けて、ここ日本で私たちと共に生きている、同胞・隣人としての脱北帰国者の証言に是非耳を傾けてください。

3月13日（日） 午後12時半開場 午後1時開会

場所：大阪経済大学 C31 教室

3月20日（日） 午後1時開場 1時半開会

場所：麴町 食糧会館大会議室

（千代田区麴町 3-3-6 地下鉄有楽町線 麴町駅1番出口すぐ）

共に参加費1000円、

主催・北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.219]]]]]]](2005.2.16)

北朝鮮、またも調査会を非難

去る 1 月 31 日に引き続き、2 月 15 日付北朝鮮労働党機関紙「労働新聞」は再び調査会を非難しました。この内容は同日午後平壤放送でも放送されました。以下にご紹介しますが、余程気になっているようです。できることなら「代表なる者」などと言わず、実名をあげて非難して戴きたいと思います。まもなく、それを持って北朝鮮に入れば英雄扱いされるようになるでしょうから。

なお、この中で「『特定失踪者問題調査会』が作成した『北朝鮮拉致被害者リスト』に載っている人々のうち、日本国内にいたことが確認された人はこれまで 8 人いるという」となっていますが、私たちは「拉致被害者リスト」とは言っておらず、また、日本国内にいたことが確認されたのは 11 人です。「強制連行 840 万人、虐殺 100 万人、朝鮮人慰安婦 20 万人」という北朝鮮にしては何ともつましやかな話です。普段の調子でいけば特定失踪者リスト約 430 人のうちで「1000 人が日本国内にいたことが分かった」と言ってもよさそうなものですが。情報を本国に送っている工作人員の皆さんは、もう少し真面目に調べた方がいいですね。本国が恥をかくだけです。

「日本側のねつ造行為に国民が怒り」 - 労働新聞 2 月 15 日付 (ラヂオプレスより)
偉大な領袖金日成同志は次のように教示した。

「日本が誤った過去を心から反省することは他人のためよりも自分自身のために必要なことである」最近、日本反動らが過去の清算を回避し、わが方を孤立させて圧殺すると言う不純な目的の下に反共和国拉致謀略・ねつ造策動を体系的に敢行してきた事実が明るみに出て国際的な非難を買っている。

日本の「産経新聞」は昨年夏、日本の「特定失踪者問題調査会」代表なるものが 1974 年に「行方不明」になった石川県出身のある男性が現在、東京に住んでいることを確認したと発表した事実を報道した。彼の所在確認によって「特定失踪者問題調査会」が作成した「北朝鮮による拉致被害者リスト」に載っている人々のうち、日本国内にいたことが確認された人はこれまでに 8 人いるという。一方、「産経新聞」は「北朝鮮による拉致被害者リスト」に載っている東京のある小学校の女性教員を殺害して、その犯行を隠すために自宅の床下に死体を埋めておきながら、今になって自首したと言う。日本反動らはこれまでこうした事件を何の証拠もないまま、むやみにわが国と結びつけてわが方によるいわゆる「拉致問題」を広めていたのである。

それだけではない。日本の「特定失踪者問題調査会」は去る 1 月、いわゆる「精密検査」をうんぬんして事実無根の資料でマスコミを担ぎ出し、「北朝鮮による拉致問題」を持ち出して強い抗議を受け、間違いを認めて謝罪することまで繰り広げた。これまで反共和国謀略団体として悪名をとどろかせてきた「特定失踪者問題調査会」が今回のような悲喜劇を演出して内外の嘲笑(ちょうしょう)と非難の対象となったのは一度や二度ではない。今

回の件で「特定失踪者問題調査会」が「入手」して「精密検査」したとされる資料や「北朝鮮による拉致被害者リスト」がいかに荒唐無稽なものであるかが如実にさらけ出された。

ぶざまなのは、日本政府を代弁する内閣官房長官なるものが今回の件に関して、「有力な新証拠が出た」とか、「北朝鮮に資料提供を求める」などと軽々しく言って、たっぴりと恥をかいたことである。これを通じて人々は日本政府がわが国を狙った極右勢力の反共和国謀略戦に深く加担、共謀していることを直感している。

諸般の事実は、わが方のいわゆる「拉致問題」を口実に反共和国謀略・ねつ造策動に狂奔する日本の極右勢力のヒステリーがいかなる段階に達しているかをはっきりと示している。夫が直接渡した日本人女性・横田めぐみ本人の遺骨について日本反動らが「偽の遺骨説」をでっち上げて広める手法を見れば、彼らが今後もあらゆる手段と方法を動員して荒唐無稽な反共和国拉致謀略劇を演出しないという保証はない。

「精密検査」に關与している東京歯科大学助教授に対しても一言いわざるを得ない。彼は先ごろわが方が引き渡した横田めぐみの骨が微細なため、骨相学に基づく検査は不可能だと言った後に、もうろくしたのか急に態度を変えて骨相学的にも横田めぐみではないと言う判断を下したのである。今回、「特定失踪者問題調査会」も彼と謀議して恥をかいた。

さらに笑止千万なのは、「偽遺骨説」をでっち上げた日本の極右勢力が「国民感情」にかこつけて反共和国制裁の導火線に火をつけようと騒ぎ立てていることである。彼らは日本国内で人が行方不明になれば、とにかくわが方と結びつけて「北による拉致の可能性を排除できない」という結論をまず下すなど、ごり押しの主張が得意である。

日本の極右勢力がわが共和国の権威と威信を傷つけ、過去の犯罪を覆い隠してその清算を必死になって回避しようとする不純な政治的目的を持ち、すでにすべて解決した「拉致問題」を引き続き持ち出して反共和国謀略、ねつ造行為を執ように敢行していることに対して、わが人民は込み上げる怒りを抑えきれずいる。日本の極右保守勢力がいわゆる「国益」とか「国民感情」なるものを口実にして「拉致問題」を、過去生産を回避するための盾や国際的にわが方を孤立させるための手段にしようとする卑劣な下心の下に反共和国謀略・ねつ造行為を体系的、計画的にはたらいてきた事実の前でわが人民は日本特有の悪らつさと狡猾さを実感しており、対日憎悪心をますます高めている。

日本反動らがいかに事実を歪曲して黒白を転倒させる卑劣な手法で自らの汚い政治的野心と目的を成し遂げようと狂奔しても、反共和国拉致謀略・ねつ造行為の責任から絶対に逃れられない。日本反動らは現実を直視して自らの醜悪な反共和国拉致謀略・ねつ造行為の真相を国際社会の前で率直に公開し、わが人民の前で謝罪しなければならない。

参考情報 日本に住む北朝鮮国会議員

現在在日朝鮮人のなかには6人の北朝鮮国会議員（最高人民会議代議員）がいます。氏名と肩書きが分かりましたのでお知らせしておきます。

徐萬述：朝鮮総聯中央本部議長

許宗萬：朝鮮総聯中央本部責任副議長

梁守政：朝鮮総聯中央本部責任副議長・現在日本朝鮮人商工連合会会長

張炳泰：朝鮮大学校学長

金昭子：在日本朝鮮民主女性同盟中央本部委員長・元愛知県本部委員長

朴喜徳：在日本朝鮮人商工連合会副会長・朝鮮総聯経済委員会副委員長

素朴な疑問ですが、何でこの人たちは日本に住んでいるのでしょうか。少なくとも永住権を持っているのはおかしいように思うのですが…。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.220]]]]]]](2005.2.19)

記者会見のお知らせ

以下の通り記者会見を行います。報道関係各位には対応方よろしくお願い申し上げます。

- 1、日時 2月25日(金)14:00～
- 2、場所 友愛会館(港区芝2-20-12)
- 3、内容 ゼロ番台12次リスト発表(10人余を予定)
この間の調査状況等についての説明
その他
- 4、参加者 調査会役員(代表荒木・専務理事真鍋他)

日程調整が可能であれば法律家の会の役員にも法律家の会の活動の現況(告発等も含め)説明して戴く予定です。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.221]]]]]]](2005.2.21)

訂正

先日お知らせした北朝鮮の国会議員（最高人民会議代議員）の肩書きで朴喜徳氏のものが違っておりましたので訂正し、あらためて全員を掲載します。この皆さんはおそらくすべて永住権を持っていると思うのですが、日本に永住権をもって北朝鮮の国会議員というのも不思議な話です。

ちなみに3月9日に北朝鮮では最高人民会議（国会）が開催されるようですが、この皆さんは出席するならば最高人民会議の場で拉致された日本人をすべて帰せと訴えてもらいたいものです。そうしないのなら日本政府は再入国禁止位の措置をとってもいいのではないのでしょうか。一般の在日が帰国した家族に援助するために北朝鮮にわたるのとは全く意味が違うのですから。（荒木）

徐萬述：朝鮮総聯中央本部議長

許宗萬：朝鮮総聯中央本部責任副議長

梁守政：朝鮮総聯中央本部責任副議長・現在日本朝鮮人商工連合会会長

張炳泰：朝鮮大学校学長

金昭子：在日本朝鮮民主女性同盟中央本部委員長・元愛知県本部委員長

朴喜徳：在日本朝鮮人商工連合会顧問・元副会長

参考情報・戦略情報研究所第3回講演会のお知らせ

以下の要領で戦略情報研究所の第3回講演会を行います。お誘い合わせの上ご参加下さい。

日時：3月22日（火）18：30～

会場：友愛会館 1階A会議室

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 TEL 03-3453-5381

（都営地下鉄三田線芝公園駅A1出口徒歩2分、JR田町駅徒歩10分）

講師：洪ヒョン（元駐日韓国公使・早稲田大学現代韓国研究所客員研究員）

テーマ：北朝鮮の対日工作活動について

参加費：2000円（戦略情報研究所会員の方はお送りしてある参加証をご利用下さい）

講師略歴

1948.2 ソウル出身

1970.3 陸軍士官学校卒

1970.4 陸軍服務

国防部（情報分析・政策・戦略研究）

1890.10 転役

外務部・駐日韓国大使館勤務

一等書記官・参事官・公使

2003.9 退職

2004.4 早稲田大学現代韓国研究所客員研究員

講師は日本とのつながりも深く、現在の韓国の左傾化を憂慮している方です。ぜひご参加下さい。なお、お名前の「ヒョン」は「螢」の「虫」の部分「火」にかえた字です。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.221]]]]]]](2005.2.22)

25 日記者会見について

25 日にはゼロ番台リスト約 20 名の発表を行う予定ですが、報道関係のかたがたに対する写真やデータの公開は従来と同様当日午前 10 時頃より調査会事務所にて行います。ただし、報道は記者会見開始後（14 時）にして下さいますようお願い申し上げます。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.223]]]]]]](2005.2.25)

記者会見内容

調査会では本日 2 時から記者会見を開催し、以下の通り発表しました。

第 12 次発表 特定失踪者 0 番台リスト

平本 和丸(ひらもと かずまる)(当時 20 歳)

生年月日 : 昭和 3(1928)年 1 月 2 日

失踪年月日 : 昭和 23(1948)年 7 月

性別 : 男

当時の身分 : 終戦後大洋漁業のトロール船に乗っていた。昭和 23 年頃本社勤めになった。

当時の居住地 : 不明

失踪場所 : 大分県中津市

失踪当時の状況 : 7 月 20 日以降、当時広島県安芸郡に居住していた実弟敏昭(後述)を尋ね「船で遠洋に出るため当分会えない。お別れに来た」と言って 7 ~ 10 日間逗留。その後大分県中津市の朝鮮在住時代の友人宅に行き何日か逗留した後、失踪。勤務していた会社にも連絡なし。朝鮮から引き揚げ者。中学生まで咸鏡南道咸興に居住していたが、親の反対を押し切って海軍予科練に内地で入隊し、終戦を迎えた。

平本 敏昭(ひらもと としあき)(当時 21 歳)

生年月日 : 昭和 4 年(1929)6 月 19 日

失踪年月日 : 昭和 25 年(1950)9 月 21 日

性別 : 男

当時の身分 : 小学校教諭

当時の居住地 : 広島県安芸郡音戸町

失踪場所 : 大分県中津市

失踪当時の状況 : 8 月 17 日 10 時頃、学校へ出勤したまま行方がわからなくなる。

9 月 7 ~ 8 日頃学校から電話で出勤していないことを知る。その後しばらくして、大分県中津市の朝鮮在住時代の友人宅に 9 月 21 日頃まで逗留していたと判明。兄和丸を探していたとのこと。

渡邊 晃佐(わたなべ こうすけ)(当時 20 歳)

生年月日 : 昭和 7(1932)年 1 月 18 日

失踪年月日 : 昭和 27(1952)年 10 月 27 日

性別 : 男

当時の身分 : 立命館大学学生

当時の居住地 : 京都府京都市右京区

失踪場所 : 京都府京都市右京区

失踪当時の状況 : 当日自宅を出て行方不明。その後連絡なし。

戸島 金芳(としま かねよし)(当時 19 歳)

生年月日 : 昭和 10(1935)年 12 月 25 日

失踪年月日 : 昭和 30(1955)年 1 月 14 日

性別 : 男

当時の身分 : 農家手伝い。農閑期には山口県に出稼ぎに行っていた。

当時の居住地 : 徳島県美馬郡美馬町

失踪場所 : 徳島県貞光駅

失踪当時の状況 : 東京に住んでいた弟に会いに行くと言って、暗くなってから出かけた。母親が小遣いを持たせたが、翌日に家に全額送られてきた。残された写真の裏には書き置きのようなものがあった。失踪の何ヶ月か前から、夜中に部屋から朝鮮語のラジオの放送が聞こえていた。悩んでいた様子があった。

田村 正伸(たむら まさのぶ)(当時 23 歳)

生年月日 : 昭和 11(1936)年 8 月 27 日

失踪年月日 : 昭和 35(1960)年 5 月

性別 : 男

当時の身分 : 会社員

当時の居住地 : 神奈川県横浜市鶴見区

失踪場所 : 不明

失踪当時の状況 : 横浜市の会社に勤務していたが、千葉県館山市にある大手水産会社に転職するため、館山のおじの家に宿泊し、その会社の面接を受けに行った。その帰りにおじの家に戻らず、消息不明に。横浜市の下宿先から、身の回りのものは特になくなっていない。

小丸 勝義(こまる かつよし)(当時 22 歳)

生年月日 : 昭和 17(1942)年 12 月 24 日

失踪年月日 : 昭和 40(1965)年 4 月 10 日

性別 : 男

当時の身分 : 造船会社勤務

当時の居住地 : 大阪府堺市

失踪場所 : 東京または舞鶴

失踪当時の状況 : 大阪の大学を卒業して舞鶴の造船会社に就職が決まり、東京本社で研修を終えて赴任地舞鶴までの切符をもらって以後行方不明。汽車に乗ったのかどうかも分からない。

西平 カメ(にしひら かめ)(当時 37 歳)

生年月日 : 昭和 3(1928)年 4 月 20 日

失踪年月日 : 昭和 40(1965)年 10 月

性別 : 女
当時の身分 : 専業主婦
当時の居住地 : 北海道帯広市
失踪場所 : 北海道帯広市
失踪当時の状況 : 失踪の 2、3 日前に内縁の夫と喧嘩をしていた。ある朝家族が起きるといなくなっていた。家財、衣服などもまったく手付かずで着の身、着のままでいなくなっていた。内縁の夫との間に生まれた 2 才くらいの乳呑児もそのまま置き去り。その後一切の連絡なし。戸籍上は大田カメ。

松沢 利江(まつざわ としえ)(当時 30 歳)

生年月日 : 昭和 9(1934)年 12 月 6 日
失踪年月日 : 昭和 40(1965)年初め
性別 : 女
当時の身分 : 飲食業
当時の居住地 : 不明
失踪場所 : 大阪?
失踪当時の状況 : 昭和 40 年初め、渋谷で食事処を姉と営んでいたが、異性問題で意見が対立し家出、行方不明。同年春頃、親元に大阪中央局の消印で「大阪で親切な人の世話で働いている」と書かれた手紙が届いた。その後音信不通。

古川 文夫(ふるかわ ふみお)(当時 18 歳)

生年月日 : 昭和 26(1951)年 9 月 5 日
失踪年月日 : 昭和 45(1970)年 2 月
性別 : 男
当時の身分 : 大工見習い
当時の居住地 : 兵庫県尼崎市
失踪場所 : 福井方面
失踪当時の状況 : 3 日位の日程で北陸方面へ遊びに行くと家を出て行方不明。出かけて 3 日目位に「あと 3 日ほどで帰る」との電話があったが帰宅せず。さらにその後、石川県の消印で、質札が入った手紙が届いた。質物件は本人のカメラなどだった。その他家出するような心あたりはなし。

萩本 喜彦 (はぎもと よしひこ)(当時 35 歳)

生年月日 : 昭和 15(1940)年 1 月 2 日
失踪年月日 : 昭和 50(1975)年 4 月 4 日
性別 : 男
当時の身分 : 製鉄会社勤務(電気保全係)

当時の居住地：兵庫県高砂市

失踪場所：兵庫県高砂市

失踪当時の状況：夜勤で自宅から仕事先（会社）へ自転車で行く途中だったと思われる。お金も持たず仕事着のまま。失踪後全く連絡なし。

仲里 次弘(なかざと つぐひろ)(当時 26 歳)

生年月日：昭和 25(1950)年 11 月 15 日

失踪年月日：昭和 52(1977)年 5 月

性別：男

当時の身分：自動車会社季節工終了後

当時の居住地：神奈川県横浜市旭区

失踪場所：不明

失踪当時の状況：陸上自衛隊に入隊し、約 2 ヶ月間の訓練を受けたあと、沖縄へ帰郷。その後自動車工場に 3 ヶ月の季節労務に着くために再び上京し、契約期間の就労を終えたあと連絡が途絶えた。昭和 52 年 5 月には神奈川県茅ヶ崎市松浪にあった断食道場に 20 日間いたことがわかっている。警察に行ったり、全国版新聞での尋ね人の広告を出したり、職業安定所での登録の確認等、東京・神奈川を中心に歩き回るが、手がかりは何一つ見つからない。2002 年 8 月に男の声で「次弘はおばさんの世話で北朝鮮に行った。“ちゅうさん”と呼ばれていた。元気だと思いますよ」などと早口で話す不審電話が実家にあった。

寺島 佐津子(てらしま さつこ)(当時 19 歳)

生年月日：昭和 35(1960)年 7 月 26 日

失踪年月日：昭和 54(1979)年 8 月 10 日

性別：女

当時の身分：銀行員

当時の居住地：神奈川県横浜市戸塚区

失踪場所：神奈川県横浜市戸塚区

失踪当時の状況：失踪当日、勤務先の支店の親睦会で鎌倉の花火大会に行き、10 時に現地解散。同僚と鎌倉駅で別れ、戸塚駅からバスで帰宅途中に行方不明。翌日、自宅近くの草むらからセカンドバッグが見つかる。警察犬の捜査でもここまで来たのは間違いない。

本多 茂樹(ほんだ しげき)(当時 26 歳)

生年月日：昭和 28(1953)年 8 月 21 日

失踪年月日：昭和 55(1980)年 5 月 21 日

性別：男

当時の身分：電話に関する仕事

当時の居住地：北海道札幌市豊平区

失踪場所：青函連絡船

失踪当時の状況：就職のため東京へ行く途中、青函連絡船の中に荷物だけ残し行方不明。道警は自殺であろうといい、家族もそうかと思い仕事も済ませたところ、実家や兄のところに、約8ヶ月間、度々無言電話がかかってきた。

亀谷 博昭(かめたに ひろあき)(当時 23 歳)

生年月日：昭和 37(1962)年 7 月 14 日

失踪年月日：昭和 61(1986)年 1 月 11 日

性別：男

当時の身分：会社員・精密機器組み立て

当時の居住地：大阪府寝屋川市

失踪場所：大阪

失踪当時の状況：朝自宅から交野市の会社へ出勤したまま行方不明。いつもと全く変わった様子はなかった。

武山 京子(たけやま きょうこ)(当時 56 歳)

生年月日：昭和 10(1935)年 12 月 20 日

失踪年月日：平成 4(1992)年 6 月 12 日

性別：女

当時の身分：会社員

当時の居住地：北海道札幌市豊平区

失踪場所：北海道浜益郡浜益村幌と床丹の間の山林

失踪当時の状況：午前 8 時半頃、タケノコ採りに入り行方不明。大搜索するが遺留品は全くなし。

小宮山 広明(こみやま ひろあき)(当時 30 歳)

生年月日：昭和 39(1964)年 11 月 22 日

失踪年月日：平成 7(1995)年 6 月 19 日

性別：男

当時の身分：工場勤務

当時の居住地：長野県埴科郡坂城町

失踪場所：長野県埴科郡坂城町

失踪当時の状況：詳細不明。当日他の家族は家にいなかった。

和田 祐介(わだ ゆうすけ)(当時 25 歳)

生年月日：昭和 52(1977)年 1 月 30 日

失踪年月日：平成 14(2002)年 5 月 7 日

性別：男

当時の身分 : 会社員

当時の居住地 : 広島県広島市佐伯区

失踪場所 : 広島県広島市佐伯区

失踪当時の状況 : 5月7日、会社から無断欠勤していると連絡がある。その後行方が分からず。アパートは、冷蔵庫湯沸しポットなど、全て電気も入れてあり、普通どおりの生活感があり、ちょっと外へ出ると言ったような様子。携帯電話、銀行通帳、キャッシュカード、ガソリンカード、免許証、タバコ入れは無かった。失踪前日まで、全く変わった様子はなかった。

高見 到 (たかみ いたる)(当時 43歳)

生年月日 : 昭和 34(1959)年 10月 11日

失踪年月日 : 平成 15(2003)年 10月 5日

性別 : 男

当時の身分 : 地方公務員

当時の居住地 : 兵庫県尼崎市

失踪場所 : 兵庫県尼崎市

失踪当時の状況 : 平成 15年 10月 6日、職場を無断欠勤。自宅マンションの部屋は、日常生活そのまま、今にも帰ってくるような状態であった。銀行通帳、キャッシュカード、運転免許証、健康保険証、印鑑、全て室内に置かれたまま。もっていったのは通常試用している、財布、私用の手帳、通勤定期券のみ。外出、通勤時は必ずコンタクトレンズを使用していたが、それも置いたまま。室内で日常使用する眼鏡はなかった。5日に阪急塚口駅前のりそな銀行塚口支店で 15時 14分 現金 21万円を引き出していたことが後に分かった。10月下旬には父親が自宅マンションを訪ねる予定だった。母親の 13回忌を 12月に行うことになっており、本人は必ず東京に来るといていた。

大政由美さん、中村美奈子さんへの対応についての発表文書

平成 17年 2月 25日

大政由美さん、中村三奈子さんへの対応について

特定失踪者問題調査会

愛媛県出身の大政由美さん(現在 37歳)と、新潟県出身の中村三奈子さん(現在 25歳)は、調査会のリストの中で、韓国内で失踪している女性です。このお2人についてはこれまでも個別にソウルの大使館等への情報収集の依頼をしてきましたが、現時点で特別な情報は入手できていません。お2人の失踪で北朝鮮の関与に関する確信は未だ持ち得ていま

せんが、失踪が事件に巻き込まれたものである可能性は高く、場所が韓国であることから、2人のケースを合わせて今後の対応をして参ります。

具体的には、お2人のご家族と相談し、支援者の方々のご意見も汲みながら2人を合わせた韓国語のピラを作成し、韓国国内で新聞等へ情報を求める広告の掲示、関係する議員、NGOなどへの協力依頼をしていく予定です。

(参考)

大政由美さん

昭和42(1967)年4月5日生まれ。平成3(1991)年3月28日失踪当時三重大学研究生。大学卒業後、1人で韓国旅行し、3月27日慶州ユースホステルにチェックインし、翌日市内観光。夕方食堂で目撃されているのを最後に消息が途絶える。その後マスコミの取材の過程で北朝鮮に拉致されたという情報が得られたとの話もあったが確認できていない。

中村三奈子さん

昭和54(1979)年9月18日生まれ。平成10(1998)年4月6日失踪。当時受験生。事前に家族に内緒でパスポートを取り、当日新潟空港から韓国便に乗ったとされている。その後行方不明。全く海外に出た経験がなく、航空券の取得などでも不可解な動きがある。もちろん、突然に家族との関係を絶って韓国に渡る理由は考えられない。

特定失踪者家族支援委員会に賛助会員制度設置

これは労働組合など、主に団体を対象としたものです。すでに連合(日本労働組合総連合会)に要請を行っています。以下は各団体に要請するときにお渡しする文書です。

平成17年2月25日

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博
特定失踪者家族支援委員会委員長 真鍋貞樹

特定失踪者家族支援委員会賛助会員制度の設置について

平素から拉致問題解決のためのご尽力に心より敬意を表します。また、特定失踪者問題調査会へのご協力を御礼申し上げます。

さて、調査会では、2年余にわたり政府未認定の拉致事件を調査し、被害者の救出を実現するための活動を行なってまいりましたが、調査によって拉致の実態が明らかになってくるに従い、活動が質量ともに拡大しております。また、失踪者のご家族が政府への要請や情報の確認をはじめとする各種活動のため上京されたりする機会も増えており、これらにかかる経費も次第に大きくなっているのが現状です。

以上の状況に対応するために、調査会では一般会計及び失踪者ご家族の行動に限定した「特定失踪者家族支援基金」へのカンパを広く要請してまいりましたが、北朝鮮内部の情勢も急を告げている中、より機動力のある対応をしていかなければなりません。つきましては、主に趣旨にご理解いただける団体を対象として表記制度を設置することとなりました。詳細は下記の通りです。各位におかれましてはぜひご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

- 名称 特定失踪者家族支援委員会賛助会員
- 目的 政府未認定拉致被害者全員の救出に向けた活動に協力し、拉致の可能性のある失踪者のご家族を支援する。
- 内容 賛助会費による家族支援基金への資金の拠出（年間1口10万円）
調査会からは郵便・メール等で各種器材・情報等を逐次お送りします。

従来のカンパも継続して行います。

以上

中央メーデーに出展

調査会では4月29日に東京で行われる中央メーデー（連合主催）の折、会場に拉致問題についてのブースを設置して、拉致問題に関する広報活動を行います。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.224]]]]]]](2005.2.26)

訂正

昨日発表した特定失踪者第12次リストの中で平成14年に失踪した和田佑介さんについて、お名前が誤って記載されておりましたのでお詫びして訂正致します。

(誤) 和田祐介

(正) 和田佑介 (お名前の最初の字は示偏ではなく人偏です)